

## 黙示録4章： 神の御座

1. 見た事(1章)
2. 今ある事(2-3章)
3. この後に起こる事(4章以降)  
→ 4章から「この後に起こる事」を学ぶ

### 「この後に起こる事」とは？

2、3章には「今ある事」として七つの教会があった。つまり教会の後、ということである。地上にある教会がその役割を終える時がある。その後の出来事が4章以降に書いてある。

### 4章と5章： 天における、神とキリストへの礼拝

6章から 19 章まで、地上に下る神の怒りが書かれている。

神が御怒りを下らせるにあたり、天において何が起きているかを描いている。

### 1-3節： 天に引き上げられるヨハネ

4:1 その後、私は見た。見よ。天に一つの開いた門があった。また、先にラツパのような声で私に呼びかけるのが聞こえたあの初めの声があった。「ここに上れ。この後、必ず起こる事をあなたに示そう。」4:2 たちまち私は御霊に感じた。すると見よ。天に一つの御座があり、その御座に着いている方があり、4:3 その方は、碧玉や赤めのうのように見え、その御座の回りには、緑玉のように見える虹があった。

「先にラツパのような声で」： 1章 10 節、イエス様の声

「この後、必ず起こる事」： 「この後」というのが教会時代のこと

「御霊に感じた」： 1章 10 節ではヨハネはイエス様の栄光の姿を見た。ここでは天における神の御座を見る。

### 天国とは何か？ → 神の御座があるところ

神に御使いも聖徒も、礼拝を捧げているところ。

従って、礼拝を好まない人、神のことを第一に考えていない人は天国に行くことを考えないほうがよい。

### 教会とは？ → 天に直結しているところ

教会には天国の鍵が与えられている(マタイ 16:19)。

「キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。(エペソ 2:6)」

2、3章にて、教会の勝利する者たちは、天における報いが約束されていた。

「碧玉」：青白いダイヤモンドのような宝石

「赤めのう」：血のような赤い宝石

神のご臨在のところには、宝石の輝きがある。

「そして、彼らはイスラエルの神を仰ぎ見た。御足の下にはサファイヤを敷いたようなものがあり、透き通っていて青空のようであった。(出エジプト 24:10)」

「彼らの頭の上、大空のはるか上のほうには、サファイヤのような何か王座に似たものがあり、その王座に似たもののはるか上には、人間の姿に似たものがあった。(エゼキエル書 1:26)」

その他、祭司の胸当て(出エジプト 28:17-20)、天のエルサレム(黙示 21:18-21)

「緑玉のように見える虹」：ノアと結んだ契約のしるしが虹だった(創世 9:13)

2-3 節は「御座の上に」、4 節「御座の回りに」、5-6 節「御座から」「御座の前」

#### 4-7 節：御座の周りにいる者たち

4:4 また、御座の回りに二十四の座があった。これらの座には、白い衣を着て、金の冠を頭にかぶった二十四人の長老たちがすわっていた。4:5 御座からいなずまと声と雷鳴が起こった。七つのともしびが御座の前で燃えていた。神の七つの御霊である。4:6 御座の前は、水晶に似たガラスの海のようであった。御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。4:7 第一の生き物は、ししのもようであり、第二の生き物は雄牛のもようであり、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空飛ぶわしのもようであった。

#### 二十四人の長老は誰？

「白い衣」：教会の勝利者に与えられる(黙示 3:4,19:8)

「冠」：王冠ではなく、競技者が与えられる賞(ステファノス 黙示 2:10,3:11)。教会に「命の冠」「義の冠」などが与えられる。

→ 教会の代表者たち

(あるいは、旧約の聖徒の 12 部族と新約の 12 使徒)

「24」は、歴代誌第一 24,25 章から 祭司(黙 1:6)

七年間の患難期は 6 章、4-5 章は天における教会、つまり教会の携挙は患難前。

「稲妻と声と雷鳴」：神の力と臨在、怒りの現れ。シナイ山でも同じ現象が起こった。神が降りて来られたから。

「七つの御霊」：1 章に出てきたご聖霊

「水晶に似たガラスの海」：純粹さを表している。→ つまり神とその御座の聖さを表している。

黙示 15:2 「火の混じったガラスの意味」神の火が地上に下っている。

#### 四つの生き物は誰？

「御座の中央と御座の回り」空間に制限されない。

## エゼキエル1章と10章 → ケルビム

ケルビム: 御座の前で主を礼拝する最高級の天使

1)エデンの園の守護者 2)贖いの蓋 詩篇 80:1「ケルビムの上に座す」

「前も後ろも目で満ちた」: 非常に知能の高い存在

「獅子」「雄牛」「人間」「鷲」

これを四福音書に重ねる人がいる。

「獅子」=マタイ: 王なるイエス

「雄牛」=マルコ: 僕としてのイエス

「人間」=ルカ: 人間としてのイエス

「鷲」: 神なるイエス

### 8-11節: 長老と生き物の礼拝

4:8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その回りも内側も目で満ちていた。彼らは、昼も夜も絶え間なく叫び続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後に来られる方。」4:9 また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、4:10 二十四人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前に投げ出して言った。4:11 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

### 四つの生き物の礼拝

「六つの翼」: 「七」は神の数。一つ足りないことにより、神より下位にいることを表す。

「昼も夜も絶え間なく」: これは天における礼拝

1)天においては、疲れるということはない。

2)神の栄光は、永遠に褒め称えるに値するほど優れている。(エペソ 2:7)

### 彼らの叫び

1)「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな」: 神は聖なる方、被造物とは隔絶している。

三度呼んでいるのは、三位一体の神であるゆえ。

2)「神であられる主」: 「神」は自分が拠り頼んでいる対象。

3)「万物の支配者」患難期に、神の全能の力が現れる。

4)「昔いまし、今いまし、後に来られる方」: 永遠に生きている方 黙示録では「永遠」が強調(14:6)

### 長老たちの呼応と礼拝

「ひれ伏して」: 当時の礼拝の仕方。今のイスラム教徒に見ることができる。

「拝み」神への服従

「冠を投げ出して」: 自分の栄光は、神の前では無に等しい。携拳の後に冠を受ける。天国においてランク付けはない。

## 彼らの告白

「万物を創造し」： 創造主

「みこころのゆえに、万物が存在」： 私たちの存在は神の悦びのゆえに存在している。

→ 自分を喜ばせようとする生活は、結局、満足できず、虚しい。

神を喜ばせる生活は、結果的に自分も満たされる。